

ラジオ福音放送「世の光」説教

「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」

マルコの福音書 15章 34節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」

この言葉はイエス様が十字架の上で語られた七つの言の第四番目の言です。しかも真昼に襲った暗やみの中で、息を引き取る直前に大声で叫ばれた孤独と絶望の叫びでした。この叫びは、キリスト教の敵対者にはキリスト教批判の材料でもあり、またあるキリスト者には困惑を覚える言葉でもあります。しかしこの言葉ほど、神様から見捨てられ、人々に無視され軽蔑されて、死に瀕しているイエス様の孤独の恐ろしさを現しているものはありません。しかし、その孤独のさ中であって、イエス様は「わが神」と叫ばれ、神様に信頼しておられるのです。

イエス様はこの地上においていつも神様と「一つ」であられました。しかしこの十字架だけは、罪人として神様から徹底的に見捨てられ、敵対者として打たれ、砕かれ、刺し貫かれて懲らしめを受けたのです。イエス様は人の背きと咎をご自身一身に負われ、身代わりとなって神様から裁かれたのです。それにより人々は神様との和解を受け、罪の許しと平和と癒やしを与えられたのです。同時に、神様に見捨てられ、孤独と絶望を嘗められた故に、一人ひとりに神様から見捨てられず、絶望に陥らなくてもよいとの救いの道が開かれたのです。

人は困難に直面する時、「神も仏もあるものか」と言って絶望に陥り、自暴自棄になって投げやりな考え方や生き方になりやすいのです。病気や失業、誤解曲解、罵詈雑言、孤独や死別の悲しみなど、人生様々な事があります。そのような時、今十字架のイエス様のこの叫びを心に留めたいものです。

私自身は今日までの歩みの中で、幾度と無く暗黒を経験しました。高校時代に亜急性腎炎で入院、献身修業中に父の召天、神学校在学中に腎臓病再発と母の召天など、卒業後も身体の不調を度々覚え、特に三十年前に、現在地での開拓伝道を始めた頃、心臓に不調を覚え入院、恐れと不安、孤独と絶望の中にありました。その時にこの主イエス様の叫びが心に留まったのです。

イエス様ご自身が「試みを受けて苦しまれたので、試みを受けている者たちを助けることがおできに」なり、「弱さに同情でき」、しかも「わたしは、決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」と約束しておられます。私たちもこのお方に「主は私の助け手です」と告白させて頂きましょう。